

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 1 報
千葉県農林水産部
令和6年5月22日

移植時期による生育の差が大きくなっています 4月植えは中干しを早めに行いましょう

[生育概況]

育苗期間中の3月下旬は気温が低かったものの、4月は全般にわたって気温が高く推移しました。そのため、苗丈は長めに生育しました。また、4月20日ごろに植えたほ場は、活着が良かったため生育が早く、草丈が長く、茎数が多くなっています。一方、5月植えは低温で降水量も多かったため、茎数がやや少なくなっています。

なお、4月の気温が高かったため、スクミリンゴガイの活動が早まり、また、一部のほ場では、藻類や還元障害の発生がみられます。

表 1 品種別の生育状況（5月20日現在）

品種	植付時期	平年比※		
		葉令の進み	草丈	茎数
ふさおとめ	4月20日	早	長	多
ふさこがね	4月20日	やや早	長	多
コシヒカリ	4月20日	やや早	やや長	多
	5月1日	並	並	やや少
粒すけ	4月20日	早	長	多

※平年比は過去10か年（2014～2023年）の平均値との比較。
ただし、粒すけは過去9年間（2015～2023年）のデータと比較。

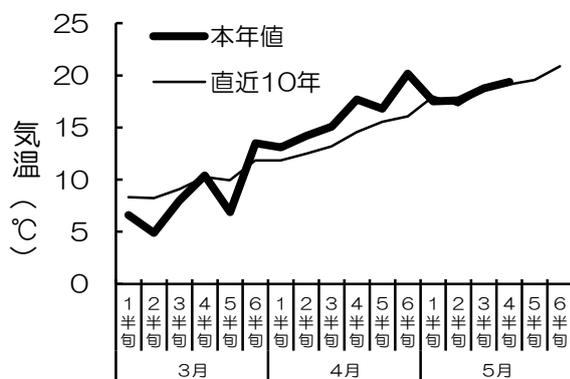


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

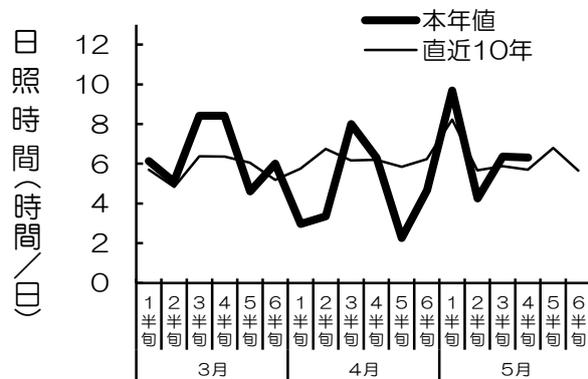


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 生育に合わせた水管理を

本年は移植時期による生育の差が大きくなっています。4月植えは、中干しを遅れないようにしましょう。5月植えて、茎数が少ないほ場では、浅水管理で茎数を管理してから中干しを実施します。中干しは、過剰分けつを避ける重要な管理です。適正な茎数確保に加え、根の活性を高めることで登熟向上や倒伏防止につながります。

表2 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)
	5月1日			
粒すけ	4月20日	472本/m ² (26本/株)	440本/m ² (24本/株)	

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安。
極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある。

■ 病害虫の適期防除

病害虫発生予報第2号（農林総合研究センター5月17日）によると、スクミリンゴガイ、イネドロオイムシの発生量は「やや多」、いもち病・イネミズソウムシは「並」の予報となっています。ここ数年、いもち病の被害が多くなっていますので、補植用の置き苗は早めに処分しましょう。病害虫発生予察情報は、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課ホームページをご覧ください。



○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミリンゴガイは、九十九里沿岸部を中心に被害が発生しています。本年は活動が早まっており、思わぬ集中加害を受ける可能性があるため注意してください。防除対策では、初期の食害を避けるため、浅水管理や薬剤防除を実施します。



■ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田でイネばか苗病が発生し放置すると、収量などに影響するほか、胞子が飛んで周りのほ場の苗にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、その採種ほ場では種子としての出荷ができなくなる場合があり、優良な種子の供給に支障をきたす恐れがあります。



稲作農家全体に関係する問題ですので、本病の発生が見られたら、出穂前までに罹病株を株ごと抜き取り、田んぼから離して埋設処理するなど新たな感染源とならないよう防除をお願いします。

■ 還元障害（ガス沸き）に注意

令和5年9月の台風により、収穫直後に冠水し、稲わらが堆積したほ場が多く見られました。水はけの悪いほ場や、大雨で稲わらが寄ってしまったほ場では、温度が上がると稲わら等が急激に分解して還元障害が発生し、分けつが抑制されることがあります。その場合には、速やかに落水して土壌中のガスを抜き、根の活性を高めましょう。

均平で被害軽減！！

千葉県ジャンボタニシ対策



ジャンボタニシ
(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシの卵塊
(1頭の年間産卵数は3,000個以上)

ジャンボタニシ対策は均平から！



左：ほ場が均平
(被害ゼロ)

右：ほ場がでこぼこ
(深いところが食害されている)

ほ場が均平なら、貝がいても、隣に大発生のお場があっても、被害はゼロ！
あきらめずに、**STOP！ジャンボタニシ被害！**

ジャンボタニシ対策は「総合防除」 (複数の対策の組み合わせ) が基本！

【春】 侵入防止

- 水路で越冬した貝がほ場に侵入しないよう、ネットや金網を取水口に設置しましょう！
- 網の目が細かすぎると、枯草などのごみが詰まりやすいので9mm程度の網目がおススメ！
- 被害に直結する大きな貝の侵入を防ぎ、ネットをすり抜ける小貝は浅水管理や農薬散布を併用！



【田植え時】 食害防止

浅水管理

水深が浅いと貝の活動が抑制されるため、田植え後約3週間、水深を4cm以下（理想は1cm）に維持しましょう。

農薬散布

使用にあたっては、表示された使用方法等を必ず確認しましょう。水温が15℃以上になり、貝が触角を出して活発に動いている姿を確認してから散布しましょう。

- * 苗が5葉期以降になると、食べられにくくなります。それまでの間、浅水管理をしたうえで、貝の発生が多いほ場は農薬を併用して食害を防ぎましょう。



【秋・冬】 越冬防止

冬期の耕うん

物理的に貝を破壊する効果と、土から出して寒さにあて凍死させる効果があります。

- * 回転速度PTO2、時速1.4km以下で耕うんすることで、殺貝効果UP！耕うん回数を重ねるごとに生存貝率は低下します。最も殺貝効果が高いのは、地面が固く締まっている1回目の耕うんです。「最初の1回だけ」「被害の多いほ場だけ」など限られた範囲だけでも、回転は速く・スピードは遅くで耕うんをしましょう。



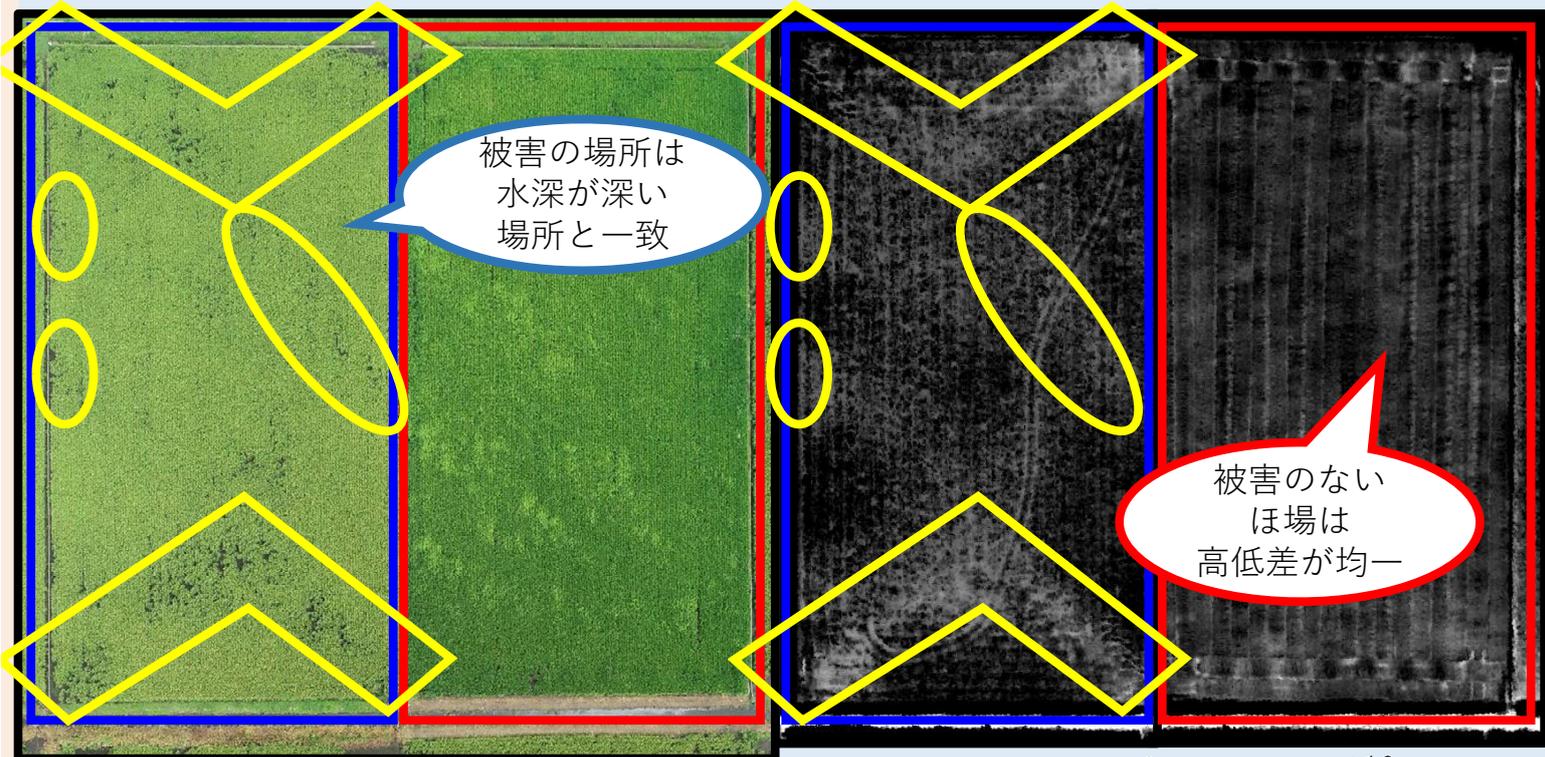
【冬】 水路の泥上げ

常に水や泥がある水路は冬でもあたたかく、越冬に最適な場所です。1～2月に泥上げし、掘り上げた泥は、ほ場に入らないよう、薄く広げて貝を寒風にさらす、又は潰すなどして、生き残らないように処理します。



特に均平による浅水管理がオススメ！

B圃場（被害多） A圃場（被害少） B圃場（でこぼこ） A圃場（均平）



被害の場所は水深が深い場所と一致

被害のないほ場は高低差が均一

-10cm (低) 0cm +10cm (高)

被害は水深が深い場所に集中します。均平だと貝が分散してまとまった欠株にならず、被害を抑えることが可能です。また、均平にすると肥料や除草剤も均一に効き、生育も揃い、利点ばかり！

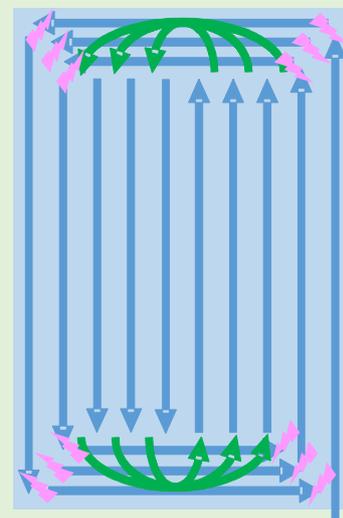
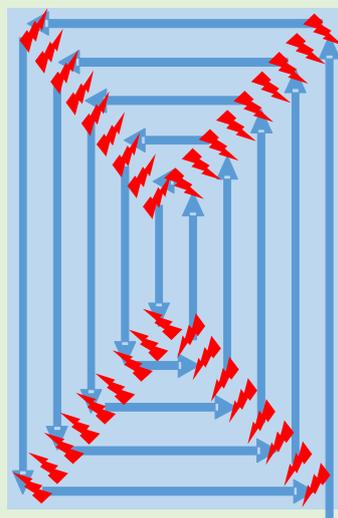
どうしてV字模様に深くなるの？

コンバインの使い方が均平度に影響を及ぼしている場合があります。



稲刈り後にできるV字模様

V字模様は収穫後の田面にあるコンバインの操作跡に酷似！
 4辺を刈り取る方法では、クローラーの切り返し部分は低くなり、刈り始めには稲わらが落ちず土が固まってしまう。
 一方、切り返しを減らす方法では、特定の部分の土が固まったり沈んだりせず、圃場全体が均平になりやすくなります。
 日ごろの作業を丁寧に行うことも有効です！



4辺を刈り取る方法 切り返しを減らす方法

- 刈り取り作業
- ↻ 切り返さず旋回
- ⚡ 乱暴な切り返し
- ↻ 穏やかな切り返し

どうやって均平にする??

水を張った時や、田植え後1か月程度の被害がよく見える時に、水深が深くなる場所を記録しておきます。

冬期にレーザーレベラーや、フロントローダー、整地キャリアなどを使って、高いところから低いところへ土を移動させます。



レーザーレベラー



フロントローダー



整地キャリア

仕上げに、代かき時に水深を確認しながら均平にします。

ただし、水を張った状態だと思ったより土は動かず、また、土を練りすぎてしまうため、部分的な土の移動にとどめます。



代かき整地

新たな場所にジャンボタニシを放すことは、絶対にやめてください！

千葉県は気候が温暖で、県内どこでもジャンボタニシが越冬することができます。一度定着すると根絶は難しくなります。



ジャンボタニシ対策として「ツバキ油粕（ツバキ油、椿サポニン、ツバキの種子）」を使用しないでください！

農薬取締法において、ツバキ油粕は、「資材の原材料に照らし、使用量や濃度によっては農作物等、人畜及び水産動植物に害を及ぼすおそれのあるもの」に指定されており、貝の防除には使用できません。



【お問合せ】

農林水産部環境農業推進課 043-223-2773

または、所轄の農業事務所まで